

第3回 清瀬市長期総合計画策定審議会

1 開催日時

令和7年2月18日（火）18時00分から20時00分まで

2 場所

清瀬市役所3階 庁議室

3 会議内容

（1）開会

（2）第2回会議の会議録確定

委員の総意により、資料1のとおり確定した。

（3）基本理念について

事務局から資料2の基本理念案及び資料3の職員アンケートを提示し、以下のとおり各委員から意見があり、質問があった場合は事務局が回答した。

- ア 職員アンケートの結果を見て、職員の「現行のままだがよい」という意見を見ると、今の理念が身についてきたところなのかなと思う。変える必要があるのかという意見もあると思うが、資料3については参考にしていただきたいということだと思う。審議会で新たな基本理念案を作ることであれば、その方がよいと思う。奇抜な案も出たが、清瀬市は人が見向きもしてくれないのではないかと心配もあった。東京の外れにある市というイメージもある中、清瀬に住み続けたいと思ってもらえるような基本理念にできればと思う。資料3についてはあくまで参考資料として考えてほしい。
- イ 清瀬市は、東京都の保全緑地と市内の緑地を合わせると市の面積の20%が緑地である。16年前から、農家の方々と協力して子どもたちの学校の登下校の見守りをしようということで、農作業時、「子どもSOS運動」の実施を続けている。その結果、市内の不審者の事例がほとんどなくなった。また、以前から緑地が多いため清瀬は空気がきれい。農業関係者の間では、「風が香る 緑のまち 明るい清瀬」をスローガンに活動している。「みどり、風、明るいまち」という言葉はなるべく理念の中に、これらの言葉を入れたいと考えている。
- ウ 緑は清瀬市を代表するイメージだと思う。先ほど緑地が市内面積の20%であるという話があった。以前は30%以上だった。つまり基本計画がありながら10%減少している。緑を守るとなると、緑だけに市税を投入するような姿勢じゃないと守れない。緑は農地や山だが、清瀬市のものでなく、個人のものであり、時期がくると農業が続けられないという時代が来て緑は減少していく。基本計画で「緑を守る」というように緑に特化するような施策を入れないといけなくなる。もし緑を基本理念に入れるのであれば、緑に関する大きな施策を立てなければならない。

- エ 新たな基本理念案として「多様性・市民と築き上げる都市型自然環境の街 夢の空間へ清瀬」を挙げた。清瀬は大自然ではなくどちらかというと里山。自然が管理されていることが大事。安全が担保されている自然。公園など手入れされている自然。清瀬市は農地も含めて大自然というよりは管理されている自然が多いと思う。つまり人を介している。清瀬市や市民が管理しているということが大事。子どもや高齢者のために管理されている自然、安心安全な自然というのが清瀬の売り。基本理念案には、弱者も強者も様々な人がいるという意味で「多様性」という言葉を入れた。また、「夢の空間」というワードも、中央公園に来る電車の名前を入れることで、清瀬の公園も含めた自然を表している。
- オ 先ほどの緑地が20%というのは、農地が18パーセントで森林が2パーセントという内訳だったと思う。森林が2%しかないのであれば、「緑」より「自然」という言葉の方が良いのかなと思っている。10年後ではなく、20年先30年先を見据えたうえで、10年を考えた方が良いと思う。緑は減少し、都市化していく。10年経ったら更に10～20%農地が減少していくだろう。将来の目的を明確にしないといけない。
- カ 緑地2%は、保全緑地として東京都が買い上げており、農業関係者が手入れもしているので、無くなることはない。農地は1年で2ヘクタール減少している。減少部分をいかに少なくして、市の力で緑地を残していくか。基本的には自然には手を入れない。人の手が入っていない自然を守る活動を継続したいと思っている。また、清瀬にはひまわりもあるが、保全緑地には「片栗」という花が咲いている。清瀬が誇れるものだと思うので是非見ていただきたい。これを含めても緑を基本理念に入れたい。
- キ 自然を守るには市の体力が必要。昔は、子どもが7歳になったときに木を利用してお祝いをする帯解き山という文化があり、それで収益を出していた。その木を育てるために新しい芽吹きをするには、枯れた木を切って、日光を当てて、植栽をしないといけない。しかし、枯れた木を一本切るのに50万円ほどかかる。これは一例だが、清瀬の自然を守るためには市の体力がないといけないと思う。緑というのはすごく大切な言葉ではあるが、清瀬市は多くが私有地。私有地を売却しないと相続性が払えない。清瀬市が体力をつけて、それを買えば緑はかなり残ると思う。緑は清瀬市に体力がないと守れない。また、先ほど意見があったように、「緑」ではなく「自然」を守るとした方が良いと思う。
- ク 今は基本理念について検討しているが、基本理念、将来像、基本目標、施策を考えていくという流れだと思う。現在自然が減少しているという事実を基本理念に反映させるのではなく、市民が「こういうまちにしていくなだ！」というイメージを膨らませたものを基本理念にするべきである。ぱっと思いつかんものが理念で、そこで「みどり」という言葉が入るならば、施策で問題に対する対策を考えるべきだと思う。
- キ 職員アンケートの中にあった「基本理念は市の最上位計画であるのであれば、自治体間競争の中で清瀬市を選んでもらうための差別化が必要」という意見が心に

残っている。市の職員が中心ではなく、市民の意見を中心に基本理念に繋がればいいと思っている方もいるのだなと思った。また、「能動的な攻めのものが良い」という意見もあり、今までのことも大事しながら新しいこともしていかなければならないという意思を感じた。私たち市民からそういう理念が出てきてほしいと思っている。高齢者、子どもたち、世代ごとに考える未来がそれぞれ反映されるべきだと思う。先を見越すような言葉が入っていると良いと思った。

ク 市役所の方たちが、どういうまちにしたいのかというのを教えてほしい。それをベースに考えた方が早いのではないか。行政のベースが無いといくら意見を言ってもまとまりがつかないのではないか。

会長 審議会は市から諮問を受けているので、審議会で考えて市に対して答申しなければならない。ただ、前回出た意見を整理した資料の提示があれば議論しやすかったように思う。今日は今ある資料の中で意見を出していただきたいと思う。事務局としては、今日また委員の皆様から意見をいただいて、次回基本理念案が提示される流れで良いか。

事務局 今回意見をいただいて、また事務局の方で取りまとめる予定だが、このままだと議論が前に進まないということも承知している。次は将来像と基本目標について議論していただく予定だが、10年後のあるべき姿やそれに対してどういう計画を立てていくかというような議論が進めば、事務局で案を絞った形で第4回会議で提示したいと考えている。

会長 次第4の基本目標、将来像に進んでから基本理念に戻るという進め方で良いか。

委員 承認。

(4) 将来像及び基本目標について

事務局から資料4を提示し、以下のとおり各委員から意見があり、質問があった場合は事務局が回答した。

ケ 清瀬市内の農地は、災害時の避難所として登録されている。畑は見通しが良いし、上からものから落ちてこない。畑の近くに防災井戸がある。畑には水と食材がある。10年以上前に市とJAで協定を結んでいる。清瀬市は全農地避難所として登録されている。新施策の中に「地域一体となった青少年の健全育成」とあるが、市内の中学校で農業体験を行っている。中学生が農家と繋がる。そして、災害が起こったときの避難場所を知ることができる。今後も中学校の職場体験を活かしていくということは今後も継続していく。

コ 横断プロジェクトとあるが、行政は大体横断。各部署が協力してやっている。人口減少が重要だと思う。清瀬は地盤が良いので安全なまち。人口減少の問題を踏まえて施策に優先順位を決めてやっていくべきなのではないかと思う。財政状況を考えて、右から考えていくというのも良いと思う。そういう見方もあると思う。

サ 右から左も良いと思う。でも予算を考えるのは職員が考えること。将来像と基本目標の中に、「まち」という言葉が使われているが現行もなのか。

事務局 現行も「～なまち」となっている。こういったまちになってほしい。こういうこ

とが求められているのではないかという視点で考えてほしい。「こういう視点でまちづくりをしてほしい」という意見ができれば、事務局で集約する

シ 「まち」という言葉について。「誰もが健幸な清瀬」としても良いかも。「働く人が輝く」まちのところに職員のことしか書いていない。市民のことが書いていない。「働く人が輝くまち」の中に、働く市民のこともいれてほしい。誰もが健幸なまち、について、高齢者支援に特化しすぎていると思う。「人を育むまち」では、子育て支援が一番最初にきているが、国の考え方では、「0～29歳」の子どもと若者が主役という考え方。子育てだと、親がメイン。「活力を生み出すまち」と「働く人が輝くまち」は別の言葉で統合するか。

ス 「誰もが健幸」なまち誰もがだとすると、高齢者だけでなくみんながだと思ふ。基本理念はたいてい、自然と人と未来のことが入っている。自然が安心安全に繋がるのではないか、将来像と基本理念がリンクできるような形になると良いのかなと思う。

セ 表で見ると、現行施策が今まで職員がやってること、新施策は令和8年度から職員がやること、基本目標は5年後、将来像は10年度、基本理念は20年～30年後。将来像お考えると基本理念が出てくると思う。

ソ

事務局から、補足資料1もとに「清瀬市世論調査」の経年比較について、資料2をもとに「Wellbeing 指標」の数値の根拠についてそれぞれ説明した。

(4) 基本理念について

事務局から、資料2をもとに基本理念の事務局案を提示し、以下のとおり各委員から意見があり、質問があった場合は事務局が回答した。

- ア 人口減少、超高齢社会の問題があるが、財政的にはどのように予測しているか。財政難の場合、施策を実施することが難しいのではないか。都市計画の中で、住宅の用途を変えていくなど、財政が潤うような施策を入れてほしい。
- ⇒【事務局】今後10年、税収は下がっていくだろうと考えているので、財政が潤うような施策は必要だと思う。基本計画についての審議の段階でご意見いただきたい。資料3のような施策体系案となっているので、今のような施策についてのお考えも踏まえながら、基本理念について検討いただきたい。
- イ 基本理念3番の「きよせをそらせる」が一番良いと思った。今後財政がひっ迫し、前回会議において市長から、「4次長総策定時の時代背景とこれからの時代背景では様々な分野において全く異なる」という話や「右肩上がりだった行政運営もスモールダウンしていくだろう」という話があった。また、世論調査の市政満足度が約35%とあまり高くなかったことから、今までの清瀬ではない新しい清瀬を見せていく必要があると考える。よって、3番の「きよせをそらせる」が良いと思う。
- ウ 基本理念案大変素晴らしいと思う。作成した人の年齢が知りたい。これから10年残る言葉として考えたときに、言葉のニュアンスもしっかりしていて、手を加えなくてもこの中から選ぶのも良いと思う。
- ⇒【事務局】事務局と事業者で協働して作成したので30~40代が中心。
- エ 清瀬市に20年弱住んでいるが、自然豊かなところが良いと思っている。公園は少ないが住みやすいと感じるから住み続けている。清瀬市の公式キャラクター「ニンニンくん」もいるが、清瀬市は農産物が盛ん。にんじんは東京都の生産量の50%くらいを清瀬市が占めていて、清瀬市は農業をがんばっている印象がある。一方で、野塩は農地から住宅地に変わってきている場所もあるが、そこに関しては次世代の新しい人たちを呼び込むためであり、新しい人たちが来てくれているのだと思うようにしている。2番の「人と心と緑をつなぎ」という言葉が良い。続く「次の時代の清瀬をひらく」からは、清瀬を変えたいというメッセージを感じるが、「僕らの世代が未来の清瀬をつくる」という言葉入れるのが良いと思う。
- 「清瀬」という漢字は、「清戸と柳瀬川」で出来ている基本理念を見たときに、何をしていくかが分かるような、みんなが分かりやすい表現が良いと思う。また、日枝神社にあるお守りには、「氣寄」とあり、「清瀬」を「元気の気を寄せる」と表現している。ひらがなの「きよせ」にした方が、「清瀬」を「氣寄」という意味で捉えることもできると思う。
- オ 他自治体の基本理念を調べたが、中央線沿いでは「文化」、北多摩は「緑」という言葉が多く、具体的に市が何を目指しているのかが分かる。1番の「きよせをつくるきよせでつくる」や3番の「きよせをそらせる」だとわかりにくい。「そり」

は起点から下がって元の位置に戻るイメージ。現行の基本理念はなぜダメなのか。

「緑」という言葉を入った方が良い。市は10年後の清瀬をどう描いているのか。駅前がどうなって、旭が丘団地や野塩団地がどうなるのか。それらを考えた上で、実態にあった基本理念を考えていかなければならないと思う。

カ 「きよせをそらせる」の「そらせる」は他のまちに遊びに行ってしまうようなイメージ。「未来を紡ぎ 希望を伝承する」「強みを守る未来を創る」は清瀬じゃなくてもできそう。「清瀬」っていう言葉は入れた方が良いと思う。

キ 清瀬市には医療施設が多くあり、農業が盛ん。農福連携という形で、農業の産物を市販している。農業と福祉の連携など、横連携の推進は重要なことだと思う。是非推進していったほしい。

ク 清瀬の良さは自然が豊かなところ。その良さは残してほしい。自然を残すためにも、財政状況の安定化が重要だと思う。人口減少が進む中で、財政状況をどのように安定させるかについては、観光に力を入れて、他から清瀬に来てもらうことが有効だと思う。商業施設もいいが、自然を生かした観光業に注力することで、自然を守っていくための資金にもなり、財政状況を安定させることにも繋がると思う。他にも、観光業で得た収入を、福祉関係や子育て関係への資金にするのも良いと思う。

ケ 「人と心と緑をつなぎ 次の時代の清瀬をひらく」の「きよせ」だけなぜ漢字なのか。ひらがなの方が優しい印象。心を繋ぐということを考えれば、ひらがなの「きよせ」の方がより適当であると考え。議論を聴いていて、基本理念案や各委員の意見から、「未来は明るいんだ」というような印象を受けた。うまくいったほしいと思う。

コ 5番の「強みを守る 未来を創る」は私の願いでもあり、良いと思う。清瀬は大きい市に囲まれているので、子どもを連れて、大きい市に出かけることが多い。清瀬のイメージは、「ぎりぎり東京」。都心に近くもあり、緑の多い街でもあるというのが理想的だと思う。世論調査での結果も、「花や緑に囲まれた自然豊かな都市」が期待されている。金山緑地公園などの公園は、緑や花に力を入れてほしい。また、「ひまわりフェスティバル」「コミュニティプラザひまわり」もコスプレの撮影に使われることが多いと聞く。アニメ的な方向性で清瀬の強みとしていけるのではないかなと思う。

サ 金山緑地公園の話があったが、川が流れている横でキャンプができる公園はなかなかない。都心近くで、ここまで綺麗なキャンプ場はなかなかない。収益化の面でもポテンシャルがあると思う。「緑」だけでなく農業も盛んであるので、「自然」という言葉を入れた方が良いと思う。

シ 清瀬に来て50年以上経つが最近になって市内を見て回っている。「緑」という言葉も良いが、もっと具体的に何をやりたいかを明確にさせないと、10年後も進歩がない状態になる。優しい言葉だけではなく、皆が見て何がやりたいかすぐわかるものにするべき。何をやりたいか、具体的なことを入れた上で、「緑」や「自然」という言葉を入れた方が良いと思う。

- ス 世の中は厳しい状況が続くが、基本理念くらいは明るくあってほしい。6～8番の「しあわせはここにある」シリーズのように、明るさを感じ取れるようなフレーズが良い。具体的な施策については、基本計画の部分で、しっかり課題を押さえていければ良いと思う。補足資料1では「清瀬に住みたいと思っている人」の割合が減っているが、何か理由があるはずである。振り返りがないと、何も変わらないままになってしまうので、清瀬市世論調査の経年比較等を分析しながら施策体系を作っていく必要があると思う。
- セ 2番の「人と心と緑をつなぎ 次の時代の清瀬をひらく」が良いと思う。4次長総も市民憲章ベースになっているので、基本理念は市民憲章に沿った形のものが良いと思う。「しあわせはここにある」を基本理念案2番に付け加えてはどうか。現行の長期総合計画の「将来像」の図が分かりやすく良いと思う。基本理念は抽象的でいいと思うが、この図は次期長期総合計画でも続けてほしい。
- ソ 教員の立場だが、清瀬の子どもたちの目線を考えたい。子どもたちが「そんな清瀬を自分たちで作っていくんだ」と思えるようにしたいので、清瀬の特徴を入れることは欠かせないと思う。この中では2番の「人や緑」が良いと思う。清瀬市世論調査の経年変化で、「人間関係が良いから」が半減しているところが気になる。関係性を大事にするという言葉が入っていると良い。ただ、2番に加えて、もう少し具体的に「どんな清瀬を目指しているのか」がわかるようなものになると、子どもたちも分かって、将来清瀬で活躍してくれるようになるのではないかなと思う。
- タ 5番に一番強さを感じる。1番と3番は抽象的なので施策で具体性をもたせるのか。2番は清瀬のイメージがわかりやすい。4番や5番は清瀬としての意志を感じる。清瀬は農業、緑、福祉、学術機関など特長があるまちだと思っている。それらの「強みを守る」とし、10年後、「その強みを守れたのか」と問えるような責任感をもったような形にすると良いのではないかと考えているので、この中だと5番が良いと思う。
- チ 「きよせらしさ」アイデンティティーをもたせるために「緑」というフレーズが入っていると良いと思った。「継承」や「継続」というよりも「さらに高めていく」「乗り越えていく」というようなポジティブな能動的なエッセンスが入ると良いと思うので、「つくる」「つくりだす」などのアクションを起こすような言葉が入っていると良いと思う。また、様々な世代が一緒に作っていくという意味合いを込めて「ともに」「協働」というエッセンスが入ると良いと思う。「緑」「ともに」「未来を創る」という言葉をうまく繋げたい。
- ツ 意見を聴きながら組み合わせて考えたのは「人と心と緑をつなぎ 未来を創る しあわせがここにある 豊かな清瀬」。10年という短いスパンについて考えなければならないが、10年では大したことはできない。例えば、道路整備や都市計画道路の整備には長い年月がかかる。区画整理で、農地と住宅地を区分するというようなことを考える時期が来たのではないかなとも思っている。そのようなことを考えつつ、今後10年で清瀬をどこまで変えられるかを考えたい。清瀬市民が豊か

になるには、宅地が増えたうえで固定資産税収入の増加や商業の活発化、人口の増加が必要。清瀬から出ない市民は多いが、新しい人も増えないのは様々な原因が考えられるが、道路整備についても原因の一つなのではないかと思う。また、新しい人に住み着いてもらうことが重要。

- テ 変えていこうという話が出ているが、変えていけないところはないか。「変えないことをやる」ことも大切。GXの面を考えると、緑は残すべき。医療福祉系の大学が3つあるのはなかなかない。「緑」と「医療・福祉」は残したい。例えば人口を増やすために大型老人施設を建てるというような方向性もあり得るのではないかな。キャッチフレーズから考えるのではなく、清瀬が何を残したいのか、何になりたいのかということから考えていき、分かりやすいものにするのが良いと思う。繁華街が少なく子どもが幼いときに子育てしやすく、子どもが大きくなれば都心には遊びに行きやすいという良さもある。市が10年後も何を守りたいのかを考えるべきだと思う。
- ト 自転車に乗っていると「清瀬市にこんな道があったんだ」と驚くことがある。先ほど観光業に注力するべきという意見もあったが、自転車ツーリズムなど、探検するだけでも面白いのではないかと思う。また、「生活する」や「生活に便利」という面で考えると、「緑と共に人が生きる」など「人が生きる」「人が生活する」というような言葉を入れた方が良いのではないかと思う。
- ナ 清瀬の自然を守っていきたい。また、清瀬は本当は良いまちなのに、良いところをアピールできていないところがあったいな。例えば、所沢や新座の人が遊びにきたいと思ってもらえるような視点が必要。「変革」「未来に進んでいく」という言葉があると良いと思う。

最後に、会長から追加の意見等あれば後日メールやFAXにて「ご意見シート」を提出するよう説明があった。

(5) その他

事務局から、第3回の会議は令和7年2月18日（火）午後6時から庁議室で開催予定である旨を伝え、閉会となった。

